

備前市事務事業評価表

事業の概要		コード	01-03-01-03
事務事業名	河川維持管理事業		根拠法令・要綱等 河川法
事業開始年度	平成17年度～		
総合計画	大項目 基本目標	安全で快適に暮らせるまちづくり	問合せ先 担当課(室) 都市整備課
	中項目 基本施策	災害に強いまちづくり	職・氏名 土木係長・梶藤 勲
	小項目 施策	市管理河川の改修整備	電話 0869-64-1835

事業の実施	対象(誰・何に対して)	河川の浸水区域で生活を営む住民、浸水区域内の道路・線路を利用する住民。
	目的(何のために)	台風、大雨等での河川増水のための決壊、氾濫による浸水被害を防ぐ。
	行政活動(どのような方法で)	河川の既設構造物で経年変化等により不具合が出ているところを修繕する。
	事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	河川維持修繕の必要な箇所への不適切な対応による事故の発生を防止する

事業の実績					
活動実績	実施項目	単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績
	維持修繕箇所(工請)	箇所	17	18	9
	維持修繕箇所(需要費)	箇所	43	22	21
	事業費	千円	18,124	11,673	7,893
	人件費	千円	7,261	7,810	3,202
	事業費計		25,385	19,483	11,095
	国・県・市支出金	千円			
	受益者負担				
	一般財源		25,385	19,483	11,095
	必要人員	人	1.00	1.06	0.43
結果指標①	結果指標名	単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績
	結果指標量	箇所	60	40	30
	対前年比	%	—	66.7%	75.0%
	活動コスト	円	23,446,630	19,094,250	11,095,000
	単位当たりコスト	円	390,777	477,356	369,833
結果指標②	結果指標名	単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績
	結果指標量	箇所			
	対前年比	%			
	活動コスト	円			
	単位当たりコスト	円			

事業の成果	成果指標名	事故発生件数	式又は説明	河川維持修繕の必要な箇所への不適切な対応による事故発生件数
		17年度	18年度	19年度
	成果指標量	0	0	0
	対前年比	—		
	到達目標値	0	到達目標年度	毎年

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		(平成19年度事業)	
目的	関法令等で目的が定められており妥当である(法律・政省令)	妥当性評価<A~E>	A
	現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である	課題認識	
	事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている		
対象	事業開始当初の目的から変化している		
	対象を見直す必要がある		
	現在の市を取り巻く環境からも事業の意図する成果を見直す必要はない	市が管理する河川の維持管理であり、市が関与することは妥当である。	
行政活動	事業の意図する成果		
	市民ニーズ		
	市民、団体などから要望・要請の強い事業である		
市の関与	本市が関与しなければならない事業である		
	事業を取り止めた場合の市民への影響は大きい		
	事業を取り止めた場合の市民への影響は克服できる範囲内である		
コスト	コスト削減の努力をしており、低減余地は大きい	効率性評価<A~E>	B
	コスト削減の努力はしているが、低減余地は小さい	課題認識	
	サービスを低下させずにコストを低減することは困難		
手	サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない		
	最適な手段を求めて職場内で改善している		
	現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある	住民ボランティア等の協力を仰ぎ、簡易な修繕箇所を原材料支給により行いコストの縮減を図っている。	
職	事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている		
	事業に関するOJT(職場研修)は行われている		
	事業実施について、職員の意見・要望が反映されやすい		
目的達成度	成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである	有効性評価<A~E>	B
	成果指標は前年度より向上している	課題認識	
	成果は向上しており今後も向上する見込みである		
成果向上の可能性	今後、成果指標は向上する余地がある		
	事業について積極的に情報提供している		
	事業実施等で積極的に市民意見を反映している	河川修繕の効果は大きく決壊等による被害は起こっていないが、点検等を強化する必要がある。	
市民参画度	事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している		
	事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている		

平成20年度の状況		説明
<input type="checkbox"/> 重点化している	<input type="checkbox"/> 休止している	維持管理予算は削減されており、修繕内容を十分精査し、安全・安心の観点から優先順位をつけて実施し、コストダウンを図る必要がある。
<input checked="" type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合している	
<input type="checkbox"/> 見直し継続している	<input type="checkbox"/> 平成19年度で廃止・完了	
<input type="checkbox"/> 事業を縮小している		
目標値	結果指標量①	30箇所
	結果指標量②	0件

総合評価	評価区分<A~E>	B	
維持管理予算は市財政の悪化により、削減を余儀なくされている中で、河川・水路の破損及び老朽化による維持修繕予定箇所は右肩上がりになっている状況である。今現在、当該事業においては、破損箇所を十分精査し、安全・安心の観点から優先順位をつけて実施しているが、更なるコストダウン及び事務処理機能向上を図る必要がある。			

平成21年度以降の方向性		平成20年度で廃止・完了
<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する)	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する	
<input type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する	
<input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合を検討する	

平成21年度以降の改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
効率性	直営による修繕体制確保	平成21年度以降	事業費削減
効率性	点検強化	平成21年度以降	災害防止